

<b>講義名</b>	英語 A (総合)			
<b>担当教員</b>	山本 勝巳			
<b>開講期・曜日・時限</b>	後期 月曜日 5時限	<b>授業形態</b>	講義	
<b>履修開始年次</b>	1年生	<b>単位数</b>	2	<b>備考</b>

**主題と概要**

高校までに学習した英語内容の復習を含め、実用的かつ基本的な英語力の向上を目指します。また、国際感覚を養うために、自ら積極的に英語を使ってコミュニケーションをはかろうとする態度を育成します。

共通教材：比較的ゆっくり話される英語ニュースを聞いて、その内容がだまかに分かるようになる。意味まとまりを整理した語みができるようになる。

独自教材：対面型で授業を行います。到達目標の達成のためには、授業形態や教材等の関係上、対面型での授業が望ましいためです。オンデマンド型ではありませんので、時間割通りの時間帯に指定された教室で授業に参加してください。なお新型コロナウイルス感染症等の学校感染症への感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生には、期限を限定してオンデマンド型課題を提供します。

**到達目標**

共通教材：基本語彙と文法事項が適切に使えるようになる。

独自教材：比較的ゆっくり話される英語ニュースを聞いて、その内容がだまかに分かるようになる。意味まとまりを整理した語みができるようになる。

なお、この科目は「対面型」で実施します。到達目標の達成のためには、授業形態や教材等の関係上、対面型での授業が望ましいためです。オンデマンド型ではありませんので、時間割通りの時間帯に指定された教室で授業に参加してください。なお新型コロナウイルス感染症等の学校感染症への感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生には、期限を限定してオンデマンド型課題を提供します。

**提出課題**

- オンライン、または紙ベースでの課題提出を求めることがあります。
- 小テスト(複数回)

**課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック**

共通教材：関連の小テスト問題について授業内で解説します。

独自教材：小テストについて、解答後直ちにスコア等がオンラインで確認可能。

**評価の基準**

出席状況、授業中の活動状況、小テスト、および提出課題などの平常点を50%とします。共通教材期末テストの得点を25%とします。定期試験の得点を25%とします。

**履修にあたっての注意・助言他**

授業には積極的に参加してください。英語の基礎力(語いおよび文法)を高めるよう努力してください。規定以上の出席欠席すると単位が認定されません。出席管理は自分で行うこと。

<b>教科書</b>				
.Health & Environment Reports from VOA Volume 4.	安港誠祐/Richard S. Lavin	松沼社	1,800円	978-4-88198-754-4

**プリント資料及び参考文献**

授業中に適宜資料を配布します。

**授業計画**

1. ガイダンス・Moodle共通教材Set 1 / Unit 3 (1)
2. Moodle共通教材Set 2 / Moodle Quiz Set 1/ Unit 3 (2)
3. Moodle共通教材Set 3 / Moodle Quiz Set 2/ Unit 3 (3)
4. Moodle共通教材Set 4 / Moodle Quiz Set 3/ Unit 5 (1)
5. Moodle共通教材Set 5 / Moodle Quiz Set 4/ Unit 5 (2)
6. Moodle共通教材Set 6 / Moodle Quiz Set 5/ Unit 5 (3)
7. Moodle共通教材Set 7 / Moodle Quiz Set 6/ Unit 7 (1)
8. Moodle共通教材Set 8 / Moodle Quiz Set 7/ Unit 7 (2)
9. Moodle共通教材Set 9 / Moodle Quiz Set 8/ Unit 7 (3)
10. Moodle共通教材Set 10 / Moodle Quiz Set 9/ Unit 11 (1)
11. Moodle共通教材Set 11 / Moodle Quiz Set 10/ Unit 11 (2)
12. Moodle共通教材Set 12 / Moodle Quiz Set 11/ Unit 11 (3)
13. Moodle Quiz Set 12/ Unit 15 (1)
14. Unit 15 (2)
15. Moodle共通教材期末テスト

**授業形態(アクティブ・ラーニング)**

ア: PBL(課題解決型学習)	イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ: ディスカッション、ディベート	エ: グループワーク
オ: プレゼンテーション	カ: 実習、フィールドワーク
キ: その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

**準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間**

共通教材：予習：次の授業で解説されるセット問題をRyuka PortalからMoodleにアクセスして解く。復習：授業で解説を聞いた後、次週のクイズ(小テスト)に向けてそのセット問題を復習する。(2時間程度)

独自教材：予習：次回範囲の単語・意味調べ(1時間程度)

復習：毎回の範囲の言語練習(1時間程度)

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

基本語彙と文法事項を定着させることで実用的かつ基礎的な語学力を修得する。また、読解練習を通して海外の社会や文化について学び、基本的な読解と内容理解・情報収集に習熟することにより、卒業時に身につけておくべき資質・能力の育成につなげる。これらの能力は学部生に求められる音楽界の動向や問題点を理解するための基礎知識・経済学部生に求められる経済にまつわる情報分析の力・人間社会学部生に求められるコミュニケーション能力の修得に役立つ。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

共通教材：LMS( Learning Management System)であるMoodleをCALL教室、および授業外の自主学習に利用している。

独自教材：教材配布・小テスト・期末試験の実施にはMoodleを利用する。

**実務経験の有無及び活用**

**備考**